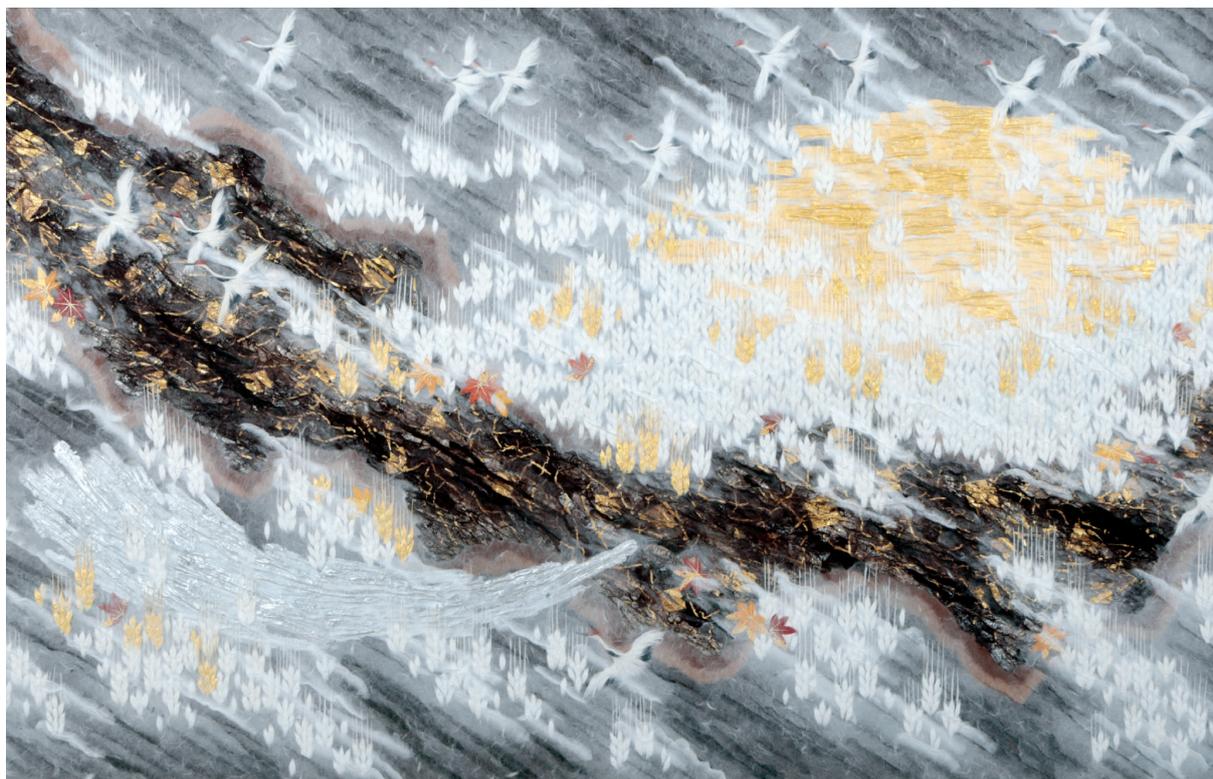


愛知医科大学 学報



日月文 山内一生

(中央棟3階展示)

＝ 第153号 ＝

2019. 1月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

年頭ごあいさつ.....	2
就任ごあいさつ.....	7
退任ごあいさつ.....	8
役員・評議員の改選.....	9
平成31年度入学試験開始.....	16
第1回オープンホスピタル開催.....	22
Smile ～スマイル～.....	34
海外研修派遣研修記.....	37



—新年のごあいさつ—

理事長 三宅 養三

新年明けましておめでとうございます。

愛知医科大学は昨年4月末のドクターヘリ格納庫の運用をもちまして、12年間にわたるキャンパス再整備に一段落をつけることができました。思えば平成18年に新病院建設委員会が立ち上がり、佐藤啓二委員長（現学長）の下、キャンパス再整備が始まりました。途中紆余曲折はありましたが、平成26年に新病院が開院し、多くの新しい施設が増築され、見違えるような新キャンパスが完成しました。キャンパス再整備に伴い、臨床、研究、教育は大いに活性化しました。しかし、勝負はこれからです。舞台は整いましたので、現在医科系大学が見舞われている猛烈な荒波の中でなんとか勝負ができる状態にはなったと思います。今年はその出発の年となります。

私は大学人として50年過ごして参りましたが、今ほど医科系大学の抱える問題が深刻な時代はなかったと思います。それは一言で言うと「大学力」が低下したことです。大学力の低下とは、国際的に比較した研究成果の低下、留学生の激減、優秀な医療人の大学離れ等々が目立ってきたことを意味します。なぜ低下したのでしょうか。一言で言うと大学の魅力がなくなってきたのです。それでは、どうすれば魅力が取り戻せるのでしょうか。給料を上げることでしょうか。確かにそういった待遇の面もありますが、もっと重要なことは働きがいのある職場環境を作ることです。生きがいを感じる職場にすることです。国が提唱する“働き方改革”とは、これはあくまで私見ですが、勤務時間を守るとか無理な仕事をさせないとかいうことではなく、いかに大学人として納得のいく仕事ができるか、ということであり、それができれば日本の医療人は時間など気にせず、納得がいくまで働くも

のなのです。それがアジアの資源のない小国であるにもかかわらず、医療・医学が世界のトップクラスという過去の世界を驚かせた日本の誇る実績だったのです。それが無残にも消え失せようとしているのです。

今年は少しでも「大学力」を取り戻す年にしたいです。新キャンパスの新しい舞台ならこれは可能です。皆さま、がんばりましょう。



— 未来創造に向けた準備 —

学長 佐藤 啓二

新年おめでとうございます。今年も皆さまにとって、明るい希望に満ちた年になりますようお願いしております。

社会情勢に伴う変化

昨年は全国の国公私立大学の医学部において、女性や多浪生にハンディキャップを与えかねない選考方法や地域枠募集の主旨が生かされていない「手上げ方式」等、入学試験が不適切であるとの指摘が相次ぎました。本学は胸を張って、「公正・公平かつ適正な入学試験を行っている」と宣言することができます。今後も「公平・公正で誠実な愛知医大精神」を堅持したいと思っております。また、今年4月27日～29日にかけて日本医学会総会2019中部が開催されます。三宅養三理事長は顧問、私は副会頭を務めており、是非とも成功させたいと願っておりますので、本学教職員・学生の皆様のご協力、ご参加をお願いします。

教育

平成29年度新卒での医師国家試験合格率は95.4%、看護師国家試験合格率は3年連続100%と高い教育成果を発揮しました。今年度は医学教育分野別認証の受審があります。若槻明彦医学部長の下、全学一致協力し準備を加速させたいと思います。

更に大学基準協会による大学評価は来年度受審の予定です。内部質保証を担保するために、日常より自己点検・評価を行い、PDCAサイクルを回すことが求められています。その一つとして、昨年8月に大学院改革会議を発足し、議論を重ねております。開学100年に向けた飛躍の発展を遂げ続ける為に「Project 100」とし、学部生については研究マインド養成を、大学院生については将来の指導者となりうる人材育成を目途として、大胆な見直し作業を進めております。

研究

昨年の科学研究費補助金の申請件数は、平成27年度に比して163%に上昇しましたが、平成29年度から18件減少

し209件に留まりました。これは採択件数が増加した影響と一定数の教員が入れ替わった結果だと考えております。Jump up作戦を継続しつつ、助教層における研究マインド醸成に向けた施策を講じる予定です。

加えて、研究創出支援センターにおけるバイオバンク活動も軌道に乗ってきました。武内恒成センター長及び関係者のご努力に感謝しつつ、正確な臨床情報と詳細な遺伝子情報を利用する近未来の臨床研究が数多く生まれることを願っています。

診療

平成30年度上半期（中央棟開院後4年半）の診療指標では、病床稼働率90.9%（精神神経科を除く）、平均在院日数10.1日、手術件数1,037.8件/月、外来患者数2,609.6名/日となりました。昨年に比して平均在院日数は0.5日短縮しており、病床利用は更に高回転となりました。医療現場は過重労働になりがちで、医師を始めとする医療職者の「働き方改革」が喫緊の課題となっており、上限設定を行った裁量労働制の考え方について議論されているところです。一方経営面から見ますと、平成26年度の特定機能病院に対する消費税補填は61.4%に留まっていた。私立医科大学病院においては、控除対象外消費税負担は237億円にも上っており、更に消費税10%となりますと、現状より一大学当たり7億4千万負担増となる見込みが示されています。幸い4年半前に開院した中央棟においては、「時間価値の創造」として、動線短縮や手順の抜本的見直しを行い、効率化・省力化を推進しておりましたので、他病院に比して作業負荷の軽減は図られているものと考えております。また、医師事務作業補助者比率は一昨年度75：1でありましたが、昨年度50：1と改善させております。今後医師・看護師を始めとする職員の更なる負担軽減に向け、タスクシェアリング、タスクシフティングを進めていきたいと考えております。

2022年開学50周年を迎えるに当たり、気持ちを引き締めて、今年1年がんばりたいと思います。



－ 厳しい時代に向けた 医学部のブランド化－

医学部長 若槻明彦

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しく
お願いいたします。

昨年の医科大学関係の注目されたニュースと言えば、
一部の医科大学の不正入試だったと思います。これに関
して、複数のマスメディアから入学試験に関するアンケ
ート調査の依頼があったり、文部科学省からは全国医科
大学への入学試験に関わる調査が行われた激動の年です。

本学医学部の入学試験は、医学部長の下、複数の委員
で構成された入学試験委員会で議論し、最終的には教授
会で承認を得る手順で実施しており、試験結果に関して
は極めて客観的で公正に評価しております。昨年からの入
学試験合格者の男女差などが注目されていますが、文部
科学省の過去6年間の調査における合格者の男女比は本
学医学部の場合、0.94とむしろ女性が多い傾向にあり、
入学試験は公正であることが改めて証明されました。今
年度の一般入学試験の志願者数は、昨年度に比較して
406名増加しており、過去最高の数でした。これは、昨
年報道された一部の医学部の不正入試の問題も影響して
いると思われませんが、むしろ本学の適正かつ公正な入学
試験の結果が大きく反映されたものと思われま。

今年、医学部で行うべき重要な項目としては、入学試
験改革、国家試験対策、日本医学教育評価機構による医
学教育分野別評価の受審などがあります。

入学試験は、2021年1月から「大学入試センター試験」
が「大学入学共通テスト」に変更され、国語・数学では
記述式が、英語ではこれまでの2技能から「読む・聞く・
話す・書く」の4技能が導入されるなど大きく変わります。
本学でもこの改革に合わせ、今後どのように対応する
かを現在検討中です。また、数年前から本学医学部では
「充実した教育・研究環境のなかで、新時代の
医学医療を担う人材を育成するとともに、私学の特性を
鑑み、社会福祉、殊に地域医療への貢献と国際的な医療
の進歩・向上への協力を目指すこと」という理念、目的
に沿って、2017年度から国際バカロレア入学試験を行
っております。この入試制度を取り入れている大学はいま
だ数少ないですが、本学では入学後、グローバルに活躍
できる医師を目指した教育を行っていきたくと考えてお
ります。

国家試験対策ですが、2017年から国家試験対策強化委
員会を設立し、成績下位学生の個人的指導及び年2回の
合宿、予備校の模試、総合試験の工夫など積極的に活動
しております。その成果が実り、昨年度の新卒合格率は
95.4%で、合格者が100名以上と過去最高でありました。
今後も、95%以上の合格率を維持しつつ、しかも6学年
次生の留年者数を10名以内にするを目標として努力
しております。

また現在、「医学教育分野別認証制度」に対応したグ
ローバルな視点からの医学教育改革が急速に進んでいま
す。本学医学部では、教員の教育に対する意識改革を目的
としたFDを複数回開催し、医学教育カリキュラムの積
極的導入に取り組んでおります。医学教育分野別評価の
内容としては、1. 使命と学修成果、2. 教育プログラム、
3. 学生の評価、4. 学生、5. 教員、6. 教育資源、7.
プログラム評価、8. 統轄および管理運営、9. 継続的
改良の9領域に分類されています。各領域には20名前後
の委員を配備、その中からリーダー、サブリーダーを置き、
本年9月2日から6日に予定されている受審に向けて、
自己点検報告書を作成中であります。

昨今、医学部を取り巻く環境は極めて厳しくなってい
ます。まず、医師過剰時代がまもなく到来します。これ
まで社会的に大きな問題であった医師不足は解消されつ
つあり、また、少子化の影響で18歳人口は減少し、医学
部入学定員も激減する可能性が指摘されています。一方、
医科大学の経営はこれまでよりも困難となってきます。
国立大学は国主導で大学間の法人を統合させるなどの対
策もありますが、私立大学は独自に難局を乗り切る必要
があります。こういった状況下において、これからの医学
部は、学生の確保を始めとする舵取りが極めて重要で
あり、特に本学のような私立医科大学においては独自の
特色を持ち、ブランド化させることが必要と考えており
ます。

本年から、本学医学部の教育・研究におけるブランド
化計画を実行し、更なる発展のために尽力する所存です。
今後とも何卒宜しくお願いいたします。



恭賀新年

— 新しい年2019年の始まりに当たり、
ごあいさつを申し上げます —

病院長 羽生田 正行

皆さまにおかれましては健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

いよいよ平成最後の年が幕を開けました。大学病院においては2014年5月9日に新病院を開院してから丸5年間、平成時代を過ごしたことになります。平成時代の終わりを更なる大学病院の発展に向けたスタートの時期と捉え、この地で最新医療を展開するのはもとより、国内のみならず国際的に評価される臨床研究に取り組む大学病院として確固たる実績を重ねるべく、職員一同一丸となり邁進してゆく所存です。どうぞ変わらぬご支援よろしくお願い申し上げます。

さて、医療界とくに医科大学を取り巻く環境は年々厳しさを増しているところですが、昨年2018年は例年に増して色々な問題が起きました。「医師の働き方改革」では、大学病院について裁量労働制等の方向性が示されていますが、自己研鑽と業務時間の考え方の整理も十分ついておらず、いまだ不透明な状況です。特定機能病院の消費増税分の補填については、ようやく厚生労働省が誤りを認め、修正案が提示されました。ただ大学病院間でのばらつきも指摘されており、今後この改定が適正なものかを全国の大学病院と共同して検証していく必要があると考えます。また、東京医科大学に端を発した不正入試問題については、全国医学部長病院長会議から昨年11月に規範が示されました。この中で、「性別」や「年齢」という属性に関する差別は不適切とされ、多くの大学（とくに私立医科大学）が是正を迫られ、対応に苦慮しています。一方で地域枠の不適切な運用については、文部科学省の指導不足もあり、是正は2020年度入試からとなりました。性差や年齢とは性質が異なるカテゴリーではあ

りますが、国立大学法人に甘いのではと思ってしまうのは、私立医科大学の僻みでしょうか。

医療機関の一つとして、医師臨床研修制度と日本専門医機構が取り仕切る「新専門医制度」の運用についても、大変注視するとともに危惧もしているところです。医師臨床研修制度は、国が主導している制度ですが、国立大学への補助が手厚い中、私立医科大学にはその10%程度しか補助が出ていない現状をぜひ是正して頂きたいと願っています。また、初期研修医数や専攻医数につきましても人口当たりの医師数が少ない愛知県がシーリング対象県とされていることは、まことに遺憾なことで、ぜひ厚生労働省や日本専門医機構には再考をお願いしたいところです。

もう一つ大きな問題は、昨今県に権限が委譲されつつある「地域医療の再編」問題です。大学病院と言えども、地域医療から離れて運営していくことは現実的ではありません。地域の中核病院としての使命を全うしつつ、地域の病床再編、機能分化をよい形に収めるように努力し、これからの変革の時代を地域で乗り切っていくという覚悟が必要になってきたと実感しています。本院がある尾張東部医療圏の北部には、公立陶生病院や旭防災病院を始め多くの医療施設があり、これらの医療施設とともに地域を支える体制を具体的に早急に確立することが2019年の大きな目標の一つとなると考えています。

2019年も愛知医科大学として、よき医療人を育成するとともに、病院でも皆さまのお役に立てるよう努力して参ります。今年も宜しくお願い申し上げます。



—挑戦し続ける 看護学部を目指して—

看護学部長 坂本 真理子

年頭に当たり、皆さまに新年のごあいさつを申し上げます。

今年は30年間続いた「平成」が終わりを迎え、新しい元号を迎えます。「平成」は皆さまにとってどのような時代だったのでしょうか。社会の変化が著しく、人々の生き方や価値観を大きく揺るがした時代であったことは間違いがなさそうです。社会が大きく変化する中、日本はこれまでに経験したことのない少子高齢社会を迎えます。

こうした社会の変化に影響されるのは看護学教育も例外ではありません。むしろ進展する少子高齢社会だからこそ、これまで以上に看護職が貢献できることが多いと考えたいものです。本学看護学部が創設された平成12年には、愛知県内の看護系大学は5校でしたが、20年後には15校となりました。看護系大学の増加は、社会の期待に応える看護を生み出す大きな力となっていくと思いますが、急激な学校数の増加が看護教育を支える教員の不足を招いているという課題にも直面しています。教員の定着は、看護学部でも頭の痛い課題ですが、教育を担う教員のFD (Faculty Development) 活動は活発に行われており、特に若手教員を対象にした丁寧なサポートについては、看護学部の特徴的な取り組みと自負しています。誰もが先を予想することが難しい時代だからこそ、力を蓄えていく時期だと思います。

大学における教育の質保証に向けては、多方面からの取り組みが行われております。看護学部も医学部と協働して、私立大学等改革総合支援事業へ取り組んでおります。看護学教育に特化したものでは、平成29年に発表された看護学モデル・コア・カリキュラムを参考に、教育内容の点検を行い、より充実したカリキュラムに向けた検討を始めました。また、日本看護学教育評価機構により、今年より看護学教育においても分野別評価の試行が始まります。第三者機関による評価にも耐えうる教育内

容を提供できるよう、これからも努力を重ねて参ります。

標準的な教育内容を担保する取り組みと同時に重視されるのが、各大学の特色ある取り組みです。本学は先進医療を牽引する大学病院を擁し、学生たちは日常的に臨場感あふれる医療現場に触れることができます。4年間を通して、医療従事者としての自覚を育てていくことができる環境は大きな強みになっています。同時にこれまでの教育実践を通して、大学の近隣地域においても、行政機関や保健医療福祉機関の皆さま、市民団体の皆さまなど、多くの応援団が存在します。看護学部が今まで以上に、病いや障がいをもつ当事者やご家族、地域の皆さまと医療職者を結びつける場となり、共に学ぶべきことや発信すべきことは何かを常に考え実践していくサイクルを創り出すことが、看護学部の強みや発展につながると信じています。

この場をお借りして、看護学部の昨年の活動の一部をご報告いたします。昨年も受験者全員が看護師国家試験に合格し、3年連続での国家試験合格率100%を達成いたしました。これは、学生の頑張りはもちろんのこと、父母会や教職員のサポート体制が実った結果と言えます。また、昨年看護学部では初めてタイ王国マハサラカム大学から短期留学の学生を受け入れました。本学の学生も積極的に交流事業に参加し、お互いの文化を学びつつ、看護学を学ぶ仲間として刺激し合う貴重な体験となりました。

また、看護学研究科で学ぶ学生たちも多忙な中で学修に励んでいます。診療看護師コースでは、今年からクリティカルケア・コースに加えプライマリケア・コースを新設することとなり、診療看護師が幅広い活躍の場を切り開く一助になると期待しています。

本年も引き続き、皆さまのご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



—愛知医科大学の更なる 発展を目指して—

理事長 祖父江 元

平成31年1月28日の理事会で学校法人愛知医科大学理事長に選任頂きました。その責任の重さを痛感しております。

私は、昭和56年名古屋大学大学院修了の年に愛知医科大学に赴任し、その後14年間神経内科医としてお世話になりました。私の重要な時期を育てて頂いて、名古屋大学に送り出して頂いたと思っています。今度は、本学の更なる発展のため、また本学が全国区のリーダーとして活躍すべく、全力を尽くすことが私の使命であり、目標であると思っています。是非よろしくお願ひ申し上げます。

本学は、三宅養三前理事長を始め、多くの先人のご努力によって、ここまで発展してきたと思います。三宅前理事長はよく「新病院を始めとした舞台はできた。今後は、その舞台で演ずる演目であり、ソフトであり、中身であり、人である」と言っておられましたが、まさにその通りであると思います。言い方を変えますと、本学は、今まさに次の発展に向けた正念場を迎えていると思います。

一方では、日本の私立医科大学は、医療界全体を含めて大変厳しい時期を迎えておりますが、見方によっては、これは、そのあり方を含めた大きな変換点を迎えているとも受け取れます。医科大学の形がどうあるべきかは、今後にゆだねられた大きなテーマだと思います。この大きな変換点を捉えて、本学の次の発展に繋げられるチャンスのある場でもあると思っています。

私が今の時点で思っていることの一部をキーワードとして申し上げますと、一つは、「人とイノベーションの重要性」です。イノベーションは、新たな変革を目指すチャレンジです。しかし、やはり何と言っても「人」が基本です。その人がいて、初めて新しい領域の開拓、医療の開拓、人材育成、地域貢献などの新たなイノベーションに繋がるものであり、今後の本学を発展させる力に繋がってくると思います。

次は、「自己実現」です。将来に向けたキャリアパスが描ける大学になることが必要だと思います。このことは、教職員、学生に関わらず重要であると思います。自分は何をしたいのか、何をを目指すのか。研究、診療、教育などそれぞれに突き出た、国際的な、あるいは全国区的な人が育ってくるのが重要です。その基本は、努力した人、頑張った人が報われる組織が重要であると思います。そのためには、評価とインセンティブが重要であり、居て良かったというような組織にしていきたいと思っています。

更には、「連携」です。病診連携、病病連携、大学間連携、大学行政間連携、国際連携、あるいは部署と部署の連携、あらゆる連携があります。これは、診療、研究、教育、全てについて言えるのではないかと思います。連携を築くということが本学の発展に繋がると思います。その連携のハブになっていくことが重要であり、連携を成功させるには得意領域を持つことが重要だと思います。得意領域を基盤にしたお互いにウィン・ウィンの連携を育てていきたいと思っています。

もう一つは、「本学の独自性」です。本学ならではのものを指すということです。「愛知医科大学と言えば〇〇」というような全国区に抜きん出た特徴を作っていきたいと思っています。全国水準を目指す、世界水準を目指すということが独自性に繋がると思います。本学の固有の遺伝子を育てていきたいと思っています。

まだ多くの思うことがあります。皆さまと共有しながら頑張りたいと思っています。

何卒よろしくご支援のほどお願ひ申し上げます。

—愛知医科大学を去るにあたって—

理事長 三宅 養三



理事長の三宅です。私は平成19年1月から学校法人愛知医科大学の外部理事に加えて頂き、平成21年6月から副理事長、同年12月から理事長代行、平成22年1月28日から理事長を拝命し、理事長を3期9年務め、平成31年1月27日をもって任期満了により退任させていただきます。平成18年に新病院建設委員会が立ち上がり、佐藤啓二委員長（現学長）を中心に始まったキャンパス再整備は昨年4月末でひとまず終了し、その年度に退任することになりました。

理事長の9年間を振り返りますと、就任時には大学は開学以来未曾有の経営危機に直面しており、開始が無期限停止となっておりました新病院建設やリーマンショック等にどのように対処していくかが最初の課題でした。在任中に突発した東日本大震災やアベノミクス等々で建設費、材料費や人件費が急上昇した中、なんとか大きな負債を抱えることなく平成26年に完成した新病院建設を目玉とするキャンパス再整備が無事終了し、それに伴い経営基盤の立て直しができるのは、ひとえに皆さま方のおかげと厚く御礼申し上げます。特に最初から最後まで鳥田孝一法人本部長、羽根田雅巳事務局長には献身的に大学の経営等につきご尽力頂き、また歴代の学長、医学部長、看護学部長、病院長には大学・大学病院を良くするため骨を折って頂きました。激動の時代を振り返ってみて、これ以上のことは絶対にできなかったと確信して

おります。なにも後悔することなく退任できるのは本当に幸せと思います。

医学部父兄後援会の皆さまにはご寄付を始めとする多くのご支援を賜り、2016年に大学本館7階に設置した学生の学習用セミナー室については、改修費の半額をご負担頂きました。おかげさまで医学部学生の勉強心は向上し、2017年度の医師国家試験合格率は、新卒が95.4%という良い成績を収めることができました。

超高齢社会を迎え、医療の課題が大きな変換を迫られる時代となりました。学生・職員の皆さまにもこのことを十分に理解して頂き、時代に即したよき医療人になるにはどのような心構えが必要かを心に留めるための学是として「具眼考究」を定めました。この言葉は臨床・研究・教育・経営の全てに通じるもので、「具眼」とは本質を正しく深く見抜く感性を意味します。臨床では正しい診断は当然ですが、これに加え、患者さんの価値観を全人的に見抜くことが「具眼」で、それに沿って個々の患者さんにとって最高の医療を提供することが「考究」です。

新病院、新キャンパスという舞台は完成し、これからは愛知医科大学の質と特色を売り物にして独自の方向に進むスタートラインに立ったわけです。長い間、本当にお世話になりました。大学と学生諸君の今後の益々のご発展をお祈り致します。

役員・名誉教授・教授懇親会開催

平成30年12月20日（木）午後6時30分から名古屋東急ホテルにおいて、役員・名誉教授・教授懇親会が開催されました。お忙しい中ご出席頂いた72名の諸先生方は、久しぶりにお顔を合わせられたこともあって話に花が咲き、とても和やかな懇親会となりました。

初めに三宅養三理事長からあいさつがあり、祖父江元

副理事長の音頭で乾杯が行われ会が始まりました。懇親会では、今年新たに就任された名誉教授、教授の先生や医学部長・病院長・看護学部長から近況報告や抱負などのあいさつがありました。

最後に佐藤啓二学長からあいさつがあり、会は盛会裡に終了しました。

役員・評議員の改選 —理事長に祖父江元 理事を選任—

平成31年1月15日開催の理事会・評議員会において、平成31年1月27日付け任期満了に伴う役員及び評議員の改選が行われ、平成31年1月28日付けで以下の方々が就任されました。任期は、平成31年1月28日から平成34年1月27日までの3年です。（非改選は除く。）

また、平成31年1月28日開催の理事会において、祖父江元 理事が理事長に選任されました。任期は、平成31年1月28日から平成34年1月27日までの3年です。

【理事】

選任区分	氏 名
学長	佐藤啓二（非改選）
評議員のうちから評議員会において選任	浅井富成，加藤政隆，坂本真理子，島田孝一，羽生田正行，羽根田雅巳，藤原祥裕，若槻明彦
学識経験者のうちから理事会において選任	内海 眞，坂井克彦，祖父江 元，那須國宏，柵木充明，山内一征

【監事】

選任区分	氏 名
法人の理事，職員又は評議員以外の者のうちから評議員会の同意を得て理事長が選任	岡田 忠，林 清博（非改選）

【評議員】

選任区分	氏 名
法人の職員で理事会で推薦された者のうちから評議員会において選任	井上里恵，衣斐 達，坂本真理子，佐藤啓二，佐藤元彦，島田孝一，多喜田恵子，道勇 学，羽生田正行，羽根田雅巳，藤原祥裕，細川好孝，山口悦郎，若槻明彦
この法人の設置する学校を卒業した者で，年齢25年以上のものの中から理事会において選任	浅井富成，大輪芳裕，藤澤恵児
学識経験者のうちから理事会において選任	伊藤健吾，伊藤隆之，今村 明，内海 眞，加藤政隆，金山和広，木下 登，黒野俊介，坂井克彦，祖父江 元，鳥井彰人，那須國宏，服部達哉，柵木充明，宮良 肇，山内一征

退任理事：三宅養三，柳田昇二

退任評議員：市川義彦，齋藤征夫，三宅養三，柳田昇二，山村恵子

石神寛通名誉教授御逝去



平成30年12月28日（金）に石神寛通名誉教授（耳鼻咽喉科学講座）がご逝去されました。享年83歳でした。

石神先生は、昭和36年3月に名古屋大学医学部を卒業され、昭和47年9月に愛知医科大学医学部耳鼻咽喉科学講座の助教授として着任されました。平成3年1月に診療教授に昇任され、平成8年4月に主任教授となり、同講座の創設から発展まで多大な貢献をされました。また、平成8年4月から医学部産業保健科学センターの臨床産業医学部門

長を務められたほか、学生生活委員会委員、視聴覚教材センター運営委員会委員、研究機器センター運営委員会委員、廃棄物処理委員会委員、リハビリテーション部副部長、中央材料部長、病院運営委員会委員など、多数の委員を歴任され、本学の教育・研究・診療の充実、発展に尽力されました。平成13年3月に愛知医科大学を定年退職されてからも、大学での診療を10年余り続けられて、その間に耳鼻咽喉科学講座の医局にもよく顔を出されて先生の豊富なご経験から色々貴重なご指導ご意見を頂きました。

ここに追悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成31年新年祝賀式挙行

平成31年1月4日（金）午後3時から大学本館たちばなホールにおいて、新年祝賀式が行われました。

祝賀式では、初めに三宅養三理事長から「大学人50年を通して、大学の魅力とは生きがいを感じる環境をいかに揃えるかにあると考えます。皆さんのおかげで成し遂げられたキャンパス再整備によって、愛知医科大学の舞台は整いました。この舞台に皆さんで働きがいのある職場環境を作りだし、また、やればできる、おもしろさや期待が持てるといった私立医大の強みを活かして、愛知医科大学がこれから更に成長していくことを期待しています。」とあいさつがありました。

続いて、佐藤啓二学長から「平成中期からの愛知医科大学は、内科・外科の臓器別再編成、看護専門学校から看護学部への移行、DPC制度の導入、新病院建設といった難局に直面してきました。そして、なんとか乗り切った今は剣ヶ峰に立っている状態であり、これからどう



新年のあいさつを述べる三宅理事長

転ぶかが問われています。元号が変わる今、皆さんの気持ちも新たにして、勝てる愛知医科大学をつくって頂きたいと願っていますので、宜しくお願いします。」とあいさつがありました。

愛知警察署感謝状の贈呈

本学が日頃から警察業務へ積極的に協力するとともに、安心で安全なまちづくりに大きく貢献したことに對して、平成31年1月10日付けで愛知警察署長から感謝状が贈呈されました。【写真】

これは、本学職員の大学付近の交差点での交通安全県民運動に係る街頭活動への積極的な参加や、本学が定期的に医学部、看護学部の学生を対象に警察関係者による「交通安全講習会」を開催することで、交通事故を防止するための交通マナーの普及及び交通安全意識の高揚を図ることに努めていることに對して贈られたものです。

本学は医科大学として、医療だけでなく、地域住民の



皆さんとともに安心・安全な生活が守られるよう、今後も様々な方面で貢献して参ります。

望月博 元中央放射線部技師長

秋の叙勲の栄誉

本院中央放射線部元技師長の望月博さんが、平成30年秋の叙勲において、瑞宝双光章を授与され、平成30年11月12日（月）国立劇場大劇場において伝達式、皇居宮殿において拝謁が行われました。心からお祝い申し上げます。

望月さんは、昭和55年に愛知医科大学附属病院に就職されてから36年の間、自身の専門性を磨くだけでなく、患者さんや部下の気持ちに寄り添うことを大切に、業務改善・部下育成に貢献されました。

昭和58年にメディカルクリニック開設に伴い、メディカルクリニック放射線検査科の立ち上げチームとして、当時の副技師長と二人で検査業務に当たられました。各診療科の医師たちと話し合いを繰り返し、診療科ごとで違う撮影・運用の取り決めを策定し、就職4年目にして、メディカルクリニック放射線検査科の基本的な撮影体制を築かれました。放射線技師として数種類の部門を一通り経験し、自身が極める分野の方向性を決めるべく、放送大学生活と福祉学科に入学されました。休日も講義を受け、人間行動学、業務運用方法、幼児や老人、障害者等へ対する接遇を学び、その知識を本院の業務改善に活かされました。

平成14年に中央放射線部の主任に昇任されると、本院総括放射線取扱主任者に任命され、放射線業務に従事する職員の教育訓練や被曝管理等を統一的に行うだけでなく、厚生労働省や保健所の立入検査、放射線治療装置の定期確認の対応もされ、放射線管理業務の責任者を退職されるまでの15年間務め上げられました。

平成25年に技師長に就任されると、新病院開設に向け、一人の技師が複数の装置を使いこなせるよう放射線エリアの中心にCT、MRI、一般撮影等をまとめて配置さ



三宅理事長（左）と望月元技師長（右）



せる設計の考案や、限られた人数で急性期医療に対応するための業務ローテーションの見直しを図り、新病院放射線部の体制基盤を築かれました。

望月さんは、今回の受章に関して「この度、このような名誉ある章を頂くことができ、誠に身に余る光栄であると同時に大学及び病院職員の皆さまに感謝いたします。特に中央放射線部の先輩、後輩の皆さまには私を支え、ご指導とご協力をして頂き大変ありがとうございました。これからの愛知医科大学及び愛知医科大学病院の益々の発展を祈っております。」と述べられました。

平成30年度永年勤続者表彰

平成30年11月22日（木）大学本館たちばなホールにおいて、平成30年度永年勤続者表彰式が行われました。

当日は、三宅養三理事長から表彰状が授与され、被表彰者へのお祝いとお礼の言葉とともに、今年度キャンパス再整備事業が完了したことを振り返り、「素晴らしい舞台ができました。十分に勝負できる体制は整いましたので、どうか30年表彰の方は40年、20年表彰の方は30年、10年表彰の方は20年と頑張ってくださいと思います。本日は誠にありがとうございました。」とあいさつがあり、被表彰者を代表して、中央臨床検査部の谷浩也技師長から謝辞が述べられ、表彰式は終了しました。



謝辞を述べる谷技師長

30年勤続者（17名）

岡本 悦子	小川 泰宏	片井 明子	古賀 善明	小鳥居秀生	鈴木 千春	谷 浩也
長谷川共美	馬場 研二	古井由美子	細田 尚孝	安江由美子		

20年勤続者（27名）

朝井 規仁	有川 卓	岩堀 裕介	大岩沙やか	勝野いつか	河合 隆志	鬼頭真樹子
今野 悠美	佐藤 洋子	柴田 裕紀	諏訪雄二郎	武田 万作	永富奈々美	波田 厚志
濱崎友紀子	林 恵美	舟木 康	堀 壽成	渡邊 恵		

10年勤続者（65名）

有元真理子	安藤 琴美	伊藤麻祐子	岩野 千晴	植松阿喜子	大島 智弘	岡田 達弥
小澤いずみ	尾関 圭子	折本 有貴	梶川 麻衣	梶田 裕加	加藤 義郎	神谷 誠
酒井 玲子	櫻井 包子	柴田 美生	鈴木 弘江	竹内 正幸	竹尾 友宏	田島いつ子
田島 貢輔	田所ゆかり	玉木 香織	寺島 舞	戸谷 信雄	富石香代子	富永かな恵
中尾 春壽	中窪みゆき	永田 大介	永田 友子	中出 幸臣	西岡 克記	丹羽 克也
橋爪 友香	林田 慶子	正田 和行	藤井 公人	松尾 梢	松原 正樹	村松 義弘
矢野 絵美	山岸 由佳	山口美保子	山田 梢恵	山本 英督	横江 徳仁	和田栄里子

(109名：五十音順・敬称略) ※氏名掲載は希望者のみ

三宅養三理事長退任記念講演会開催

平成31年1月25日（金）大学本館たちばなホールにおいて、三宅養三理事長退任記念講演会が開催されたところ、招待者110名及び教職員約350人が出席し、大変盛大なものとなりました。

この講演会は、「最終講義」として企画され、会の始まりに当たり佐藤啓二学長から、三宅理事長が新病院建設を中心とするキャンパス再整備を成し遂げられた功績を称えるとともに、多くの優秀な人材をリクルートされたことなどが紹介され、教職員を代表して感謝の意が表されました。

三宅理事長は講演の中で、加藤延夫前理事長のご指導に対し感謝を述べられ、更に初代太田元次理事長の建学の精神が今も脈々と生き続けていることを大変誇りに思いますと語られました。そして、新たに制定した学是「具眼考究」の神髄とその実践が昼夜を分かたず献身的に活動した職員の働きや関係者の深い理解を呼び起こし、新病院建設を蘇らせキャンパス再整備完了に繋がったことを熱く語られました。更に、目標を達成した新病院建設募金への感謝、学生、卒業生、教職員の活躍などを数々紹介されました。続いて、三宅理事長ご自身の研究活動の成果も披露されました。その基盤となった三宅家のルーツにも話を展開され、場内からは感動のどよめきが幾度も湧き起こりました。

最後に歴代の学長、両学部長、病院長等の愛知医科大学関係者に心からの謝辞を述べられて講演を締めくくられました。

講演後には、医学部眼科学講座の瓶井資弘教授を始め8名の方々から花束の贈呈があり、三宅理事長はその花束を手に会場を埋め尽くした参加者とともに記念写真に収まって、会はお開きとなりました。



講演される三宅理事長



記念撮影

学長招聘講演会を開催 名古屋大学大学院医学系研究科（国際医学教育学）・教授 粕谷英樹先生

平成30年12月12日（水）午後5時30分から大学本館203講義室において、本学医学部卒業生（平成2年）で、現在は名古屋大学大学院医学系研究科国際医療教育学・教授の粕谷英樹先生を講師にお招きし、「愛知医大からハーバード大学、そして名古屋大学医学部教授への道」と題し、学長招聘講演会が開催されました。

粕谷先生は、本学をご卒業後、名古屋聖霊会聖霊病院、名古屋第二赤十字病院で外科医として研鑽を積まれ、平成12年3月に名古屋大学大学院において医学博士を取得されました。同年4月から米国ハーバード大学医学部外科で博士研究員として4年間研究に従事された後、名古屋大学に戻られ、消化器外科学講座・非常勤講師、国際連携室（国際交流室）・准教授を経て、平成29年6月に国際医学教育学の教授に就任されています。

講演では、先生ご自身の生い立ちや愛知医大での学生時代のエピソードを始め、進路を選択する中で海外留学をいつから志したかなどご略歴に沿って分かりやすくお話し頂きました。現在名古屋大学で行っている医学英語セミナーについては、実際の動画を交えて解説して頂き、症例検討会では、日本語を禁止し英語のみで取り組みながら英語力の強化につなげていることや外国人の模擬患者さんを招いて問診を行う事例の紹介があり、参加した学生は熱心に聞き入っていました。研究活動としては、癌免疫治療研究室で取り組んでいる「腫瘍溶解性ウイル



講演する粕谷先生

ス」と「癌に対する免疫療法」を様々なスライドを用いて分かりやすく説明して頂きました。

講演の中で、「世界に羽ばたこう」、「留学先は自分で切り開こう」、「早く好きなこと、やりたいことを見つけよう」、「学生時代の無茶はやり直せる」、「アクセルは踏みっぱなしで」、「5年後10年後のVisionを持って計画を立てよう」などのメッセージを添えながらお話しがあり、最後に「世界を相手に戦える医師になろう」と熱いメッセージを届けて頂きました。

講演後にも、学生や教員からたくさんの質問が寄せられ、予定時間を大幅に超えて活発な意見交換が行われました。貴重なご講演ありがとうございました。

男女共同参画プロジェクト委員会

キャリア教育講演会開催

男女共同参画プロジェクト委員会の事業の一環として、平成30年11月27日（火）午後5時30分から大学本館204講義室において、愛知医科大学キャリア教育講演会が開催されました。

本講演会は、医学生生の時期から男女共同参画やワークライフバランスについて理解しておくことを目的としており、当日は想定を大幅に超え、教職員・学生84名の参加がありました。

当日は、本学医学部の卒業生で、現在本院で活躍されている医師の先生3名を講師に迎え、三部構成で行われました。

講演1では、「卒後15年までのキャリア」と題して、乳腺・内分泌外科の高阪絢子助教から、これまでのキャリア形成についてお話し頂き、仕事と家庭を両立できたことは家族や周囲の方の協力があってのことと強調されました。

講演2では、「女性心臓血管外科医？奮闘記」と題して、心臓外科の杉山佳代助教から、一日の生活リズム、これまで出会った恩師からの言葉や本学に赴任するまでの経緯に触れながら、最後に「人生一度きり～時に冒険の心を～」と題して、ご自身が旅行などを楽しむ写真が紹介されました。

講演3では、「赤ちゃん連れ夫婦、愛知医大で働く」



学生の質問に答える3名の講師

と題して、脳卒中センターの田口宗太郎助教から、子育てを通じた起床から就寝までの一日の生活状況について、写真を多数交えて紹介がありました。

講演後、男女共同参画プロジェクト委員会委員の神谷英紀准教授（糖尿病内科）の進行役の下フリーディスカッションが行われ、参加した学生からの質疑を交えながら仕事や子育てについて活発な意見交換が行われました。

また、同委員会委員の山本さゆり講師（消化管内科）から愛知臨床研修セミナーの紹介があり、最後に春日井邦夫委員長（副学長・消化管内科・教授）から閉会のあいさつで会は終了しました。

愛知医科大学公開講座

長久手市連携事業

～子育て・子どもの病気～

平成30年11月13日（火）午後1時30分から長久手市保健センター3階会議室において、公開講座が長久手市との連携事業として開催され、医学部小児科学講座の奥田真珠美教授（特任）が「子育てのお悩み・ちょっと気になる子どもの症状—小児科医が解説！—」と題して講演を行いました。

講師を務めた奥田教授（特任）からは、子育てに関する身近なテーマである「夜泣き・臍ヘルニア（でべそ）・異物誤飲・ミルクの嘔吐」のについて予防・改善方法の紹介があり、子どもの命をおびやかす二つのお腹の病気「腸重積・急性虫垂炎」については、病気のメカニズムや漢方薬についても触れながらお話がありました。また、

便秘のサイクルや夜尿症改善に向けたトイレトレーニングの方法についても詳しく解説され、参加者からは「子どもが小さい頃に悩むことの話が聞けてとても参考になった。」「子どもの成長の中で注意しなければいけないことが簡単に分かることができとても良かった。」などの感想がありました。



講演する奥田教授（特任）

瀬戸市連携事業

～はじめよう！ロコモの予防 へらそう！ひざの痛み～

平成31年1月19日（土）午後1時30分から瀬戸市やすらぎ会館5階大集会室において、今回初めて瀬戸市との連携事業として公開講座が開催され、医学部整形外科講座の出家正隆教授が「はじめよう！ロコモの予防 へらそう！ひざの痛み」と題して講演を行いました。

講師を務めた出家教授からは、「運動器症候群」とも言われるロコモティブシンドロームは活動能力の低下を意味し、サルコペニア、変形性膝関節症、骨粗鬆症等が歩行障害を起し、いずれ歩けない、立ち上がれないなどの要支援・要介護が必要になるリスクが高くなるとお話があり、ロコモの予防法として日常生活での運動を行うにも膝関節痛の予防が重要であると強調されました。

参加者からは「とても参考になった。」「健康のためにも、定期的で開催してほしい。」などの感想があり、大変盛況でした。

愛知医科大学では、来年度以降も瀬戸市と連携をして健康講座の開催を計画しております。



講演する出家教授

平成30年度愛知県災害医療コーディネーター研修開催

平成30年11月3日（土・祝）及び平成31年1月14日（月・祝）の2日間にわたり、愛知県医師会館において、本学を含め、愛知県と愛知県医師会の三者共催による平成30年度愛知県災害医療コーディネーター研修が医師及びロジスティック向けにそれぞれ開催されました。【写真】

1日目は、愛知県の災害時における医療調整機能の強化を図ることを目的として、地域において災害時に医療チームの派遣調整、患者の受け入れや搬送の調整を担当する医師等を対象に、その活動に必要な知識の習得と県共通の認識を共有するための研修プログラムで実施されました。講師には、昨年度と同様に災害医療ACT研究所の方々を招へいし、研修を運営して頂きました。

研修会には、地域災害医療コーディネーターを始め、県内の保健所や各地域の医師会から42名の参加者が集まり、災害想定等を各地域の地図に書きながら、救護計画の策定や本部運営・救護班調整演習等を行いました。

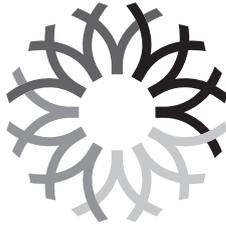
2日目は、地域災害医療コーディネーターをサポートするロジスティック（調整員）向けに大規模災害時の円滑な災害医療対応を学ぶことを目的として研修プログラムが実施され、66名の参加者が集まりました。講師には、国立病院機構災害医療センターDMAT事務局を始め、



関係機関から講師を招へいし、運営して頂きました。

東日本大震災や熊本地震の医療活動結果から、発災直後の急性期から亜急性期の医療活動が脆弱になった要因として、移行期における連携活動に課題が挙がっており、昨年度からロジスティック編の研修も開催されています。

本学では、南海トラフ地震や各種災害における犠牲者を軽減するため、災害医療の教育・研究をより積極的に進めて参ります。



第30回 日本医学会総会 2019 中部

医学と医療の深化と広がり ～健康長寿社会の実現をめざして～

学術集会

2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)

名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいち

学術展示

2019年4月26日(金)～4月29日(月・祝)

名古屋国際会議場、ポートメッセなごや



齋藤 英彦
名古屋大学名誉教授



松尾 清一 名古屋大学総長
郡 健二郎 名古屋市立大学長
駒田 美弘 三重大学長
星長 清隆 藤田医科大学長

柵木 充明 愛知県医師会会長
森脇 久隆 岐阜大学長
今野 弘之 浜松医科大学長
佐藤 啓二 愛知医科大学長



高橋 雅英 名古屋大学理事

事前参加登録

2019年4月5日(金)正午まで

締切迫る!

参加登録区分 (区分は、登録時の身分とする)	事前参加登録 2018年2月1日(木)正午～2019年4月5日(金)正午まで	当日参加登録 2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)
医師・歯科医師・研究者	30,000円	35,000円

各種研修制度との連携

New

1. 日本専門医機構専門医共通講習

受講内容に応じて、下記の専門医共通講習の単位取得が可能です。

- ① 感染対策(必修)：2単位
- ② 医療安全(必修)：2単位
- ③ 医療倫理(必修)：2単位

2. 日医かかりつけ医機能研修制度応用研修単位

日本医学会総会に出席することにより応用研修の「関連する他の研修会」として2単位が付与されます。

3. 産業医・健康スポーツ医研修単位

事前申込のみ(定員制・先着順) (別途5,000円)

4. 日本医学会分科会(一部)の研修単位

分科会の認定する専門医制度等について、分科会規定に基づき単位取得が可能です。

5. 日本医師会生涯教育制度学習単位

受講内容に応じて日本医師会生涯教育制度の単位およびカリキュラムコードの取得が可能です。

事前参加登録完了後に産業医セッション受講申込専用サイトをご案内します



事前参加登録はこちらから ▶ <http://isoukai2019.jp/>

同時期開催

第116回日本内科学会総会・講演会

テーマ:新時代の内科学の創造 ～分化と統合、そして融合～

会長

長谷川 好規

名古屋大学大学院医学系研究科
病態内科学講座 呼吸器内科学 教授

2019年

4月26日(金)～4月28日(日)

ポートメッセなごや

「第30回日本医学会総会 2019 中部」参加により総合内科専門医認定更新単位：10単位、認定内科医認定更新単位：5単位が取得可能です。

主催：日本医学会

■主務機関：名古屋大学医学部、名古屋市立大学医学部、藤田医科大学、愛知医科大学、岐阜大学医学部、三重大学医学部、浜松医科大学、金沢大学医学部、金沢医科大学、福井大学医学部、富山大学医学部、信州大学医学部、愛知県医師会、岐阜県医師会、三重県医師会、静岡県医師会、石川県医師会、福井県医師会、富山県医師会、長野県医師会
■後援：日本医師会、日本学術会議、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、石川県、福井県、富山県、長野県、名古屋市、(公財)名古屋観光コンベンションビューロー、(一社)中部経済連合会、名古屋商工会議所、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、日本経済新聞社、産経新聞社、中日新聞社、NHK、CBCテレビ、東海テレビ放送株式会社、メーテレ、中京テレビ放送株式会社、テレビ愛知株式会社

(学会事務局より提供)

平成31年度入学試験開始

今年もいよいよ入試シーズンの幕開けとなりました。

本学においても医学部、看護学部、大学院の入試が行われています。いずれの試験においても、受験生の合格への意気込みが感じられました。

《医学部》

●推薦入学試験

<公募制>

- ①試験日 平成30年11月17日(土)
- ②志願者数 106名
- ③受験者数 106名
- ④合格者発表 平成30年11月26日(月)
- ⑤合格者数 20名

●国際バカロレア入学試験

- ①試験日 平成30年11月17日(土)
- ②志願者数 1名
- ③受験者数 1名
- ④合格者発表 平成30年11月26日(月)
- ⑤合格者数 1名

●一般入学試験

<第1次試験>

- ①試験日 平成31年1月22日(火)
- ②志願者数 2,382名
- ③受験者数 2,314名
- ④第2次試験受験資格者発表
平成31年1月28日(月)
- ⑤第2次試験受験資格者数
428名

<第2次試験>

- ①試験日 平成31年1月31日(木)・2月1日(金)
- ②合格者発表 平成31年2月7日(木)

●大学入試センター試験利用入学試験

<前期>

<第1次試験>

- ①試験日 平成31年1月19日(土)・20日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
平成31年2月7日(木)

<第2次試験>

- ①試験日 平成31年2月14日(木)
- ②合格者発表 平成31年2月21日(木)

<後期>

<第1次試験>

- ①試験日 平成31年1月19日(土)・20日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
平成31年3月4日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 平成31年3月8日(金)
- ②合格者発表 平成31年3月14日(木)

●愛知県地域特別枠入学試験

<A方式>

- ①試験日 平成30年11月17日(土)
- ②志願者数 36名
- ③受験者数 35名
- ④合格者発表 平成30年11月26日(月)
- ⑤合格者数 5名

<B方式>

<第1次試験>

- ①試験日 平成31年1月19日(土)・20日(日)
- ②第2次試験受験資格者発表
平成31年3月4日(月)

<第2次試験>

- ①試験日 平成31年3月8日(金)
- ②合格者発表 平成31年3月14日(木)

《看護学部》

●推薦入学試験

<指定校制>

- ①試験日 平成30年11月23日(金・祝)
- ②志願者数 15名
- ③受験者数 15名
- ④合格者発表 平成30年12月4日(火)
- ⑤合格者数 15名

<公募制>

- ①試験日 平成30年11月23日(金・祝)
- ②志願者数 58名
- ③受験者数 58名
- ④合格者発表 平成30年12月4日(火)
- ⑤合格者数 15名

●社会人等特別選抜

- ①試験日 平成30年11月23日(金・祝)
- ②志願者数 1名
- ③受験者数 1名
- ④合格者発表 平成30年12月4日(火)
- ⑤合格者数 0名

●一般入学試験

- ①試験日 平成31年1月27日(日)
- ②志願者数 518名
- ③受験者数 514名
- ④合格者発表 平成31年2月6日(水)

●大学入試センター試験利用入学試験 (A方式・B方式)

- ①試験日 平成31年1月19日(土)・20日(日)
- ②合格者発表 A方式・B方式:
平成31年2月6日(水)

《大学院医学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
基礎医学系、臨床医学系各専攻合わせて12名
- 2 出願期間
平成30年12月10日(月) から
平成30年12月25日(火) まで【必着】
- 3 入学者選考方法
入学者は、学力試験及び出身大学の調査書を総合して選考する。
①試験日 平成31年2月8日(金)
②試験項目及び時間

時 間	試験項目
10:00 } 12:00	外国語(英語)[辞書使用可, 電子辞書不可] ※ 外国人志願者の外国語試験は、英語一カ国語のみによる試験又は英語と日本の二カ国語による試験のいずれかを選択する。
13:00 }	面接試問 (志望する専攻分野に関連する専門試験を含む)

- 4 合格者発表
平成31年2月26日(火)
- 5 入学手続期間
平成31年2月27日(水) から
平成31年3月6日(水) まで
- 6 出願書類提出先
愛知医科大学医学部教務課大学院係

《大学院看護学研究科》

●第2次募集

- 1 募集人員
慢性看護学、地域看護学の各領域合わせて若干名
- 2 出願期間
平成31年1月7日(月) から
平成31年1月21日(月) まで【消印有効】
- 3 入学者選考方法
入学者の選抜は、学力試験、小論文、面接及び出願書類等を総合して判定する。
①試験日 平成31年2月7日(木)
②試験科目及び時間等

時 間	試験科目等
9:00 ~ 10:30	小論文
10:45 ~ 12:15	専門科目(※)
13:15 ~	面接

※専門科目の出題について

- ・修士論文コース：志願する専攻領域
- 4 合格者発表
平成31年2月13日(水) 正午ごろ
 - 5 入学手続期間
平成31年2月14日(木) から
平成31年2月20日(水) まで
 - 6 出願書類提出先
愛知医科大学看護学部教学課大学院係



平成31年度学年暦のご紹介

平成31年度の医学部及び看護学部の学年暦を紹介します。

医 学 部	
4月1日	前学期開始 5・6学年次前学期授業開始
4月2日	入学式
4月3日・4月8日 4月4日～4月5日 4月8日	新入生ガイダンス 1学年次合宿研修 1・2学年次学生定期健康診断 2～4学年次前学期授業開始
4月9日	1学年次前学期授業開始 3・4学年次学生定期健康診断
5月13日 5月17日	解剖慰霊祭 5・6学年次学生定期健康診断
5月20日～5月24日	5・6学年次総合試験A 1学年次早期体験実習 (シミュレーション実習)
6月10日～6月14日	1学年次早期体験実習 (看護体験実習)
7月16日～7月17日 7月20日	3学年次定期試験 5学年次Post-CC OSCE体験 6学年次Post-CC OSCE
7月15日～8月18日 7月15日～8月25日 7月22日～9月1日 7月29日～9月1日 8月27日	5学年次夏季休業 4学年次夏季休業 6学年次夏季休業 1～3学年次夏季休業 4学年次共用試験CBT
9月2日 9月2日～9月6日	1～3学年次後学期開始 1学年次早期体験実習 (臨床科見学実習)
9月9日～9月20日 9月28日	3学年次地域包括ケア実習 3学年次アーリーエクスポージャー 4学年次共用試験OSCE
9月30日～10月4日 10月14日 10月17日 10月21日 10月24日～10月25日	4学年次地域医療実習 4学年次後学期開始 1～3学年次総合防災訓練 5・6学年次後学期開始 5・6学年次総合試験B
10月26日	4学年次白衣式
11月2日・3日	医大祭
12月23日～1月5日 12月23日～1月13日	1・2・4～6学年次冬季休業 3学年次冬季休業
2月1日 2月3日～2月7日 2月17日～3月31日 2月24日～3月31日	4・5学年次総合試験C 2学年次地域社会医学実習 1学年次春季休業 2・3学年次春季休業
3月7日	卒業証書・学位記授与式
3月16日～3月31日 3月30日～3月31日	4学年次春季休業 5学年次春季休業

看 護 学 部	
4月2日	入学式
4月3日～5日・8日 4月3日 4月8日	新入生ガイダンス・新入生研修 2～4学年次前学期授業開始 2・3学年次学生定期健康診断
4月9日	1学年次前学期授業開始 1・4学年次学生定期健康診断
6月22日 6月24日・25日 7月1日～7月5日 7月12日	2学年次キャンドルセレモニー 3学年次定期試験 2学年次定期試験 4学年次定期試験
7月29日～8月2日 7月29日～9月16日 8月5日～9月16日 8月6日～9月16日	1学年次定期試験 3・4学年次夏季休業 1学年次夏季休業 2学年次夏季休業
9月17日	1～4学年次後学期授業開始
10月17日	1・2学年次総合防災訓練
11月2日・3日	医大祭
12月16日～20日・ 1月7日～24日 12月23日～1月5日 12月23日～1月9日	2学年次定期試験 1～3学年次冬季休業 4学年次冬季休業
1月27日～1月30日 1月27日～3月31日 1月31日～3月31日 2月5日～7日 2月10日～3月31日	1学年次定期試験 2学年次春季休業 1学年次春季休業 3学年次定期試験 3学年次春季休業
3月7日	卒業証書・学位記授与式

プロフェッショナリズム教育に関するFD

平成30年11月9日（金）午後5時30分から、大学本館301講義室において、プロフェッショナリズム教育に関するFDが開催され、医学部教員約150名が参加しました。

現在の医学教育においては、第一の教育目標として「プロフェッショナリズム」が挙げられています。プロフェッショナリズムは、患者さんや社会から信頼を得るために医療人・医療組織が備えるべき資質・価値観・態度・行動を指します。非常に重要な教育目標ではありますが、これを明示的に教えられることはあまり行われてきませんでした。

今回のFDでは、千葉大学医学部医学教育研究室准教授の朝比奈真由美先生を講師にお迎えし、「プロフェッショナリズム」に関する領域で先進的な取り組みをされている千葉大学での事例をご紹介頂きました。【写真】

多様な価値観を持つ現代の医療者においては、ロールモデルからの暗黙の学びでは不十分であり、組織文化に根づく隠れたカリキュラムの影響を考慮しなければ教えたことと実際に行われたことのギャップのために学修者はシニカルになってしまうこと、1学年次から継続的に



卒後・生涯に至るまで教育する必要があること、多職種連携教育を取り入れ、多様な考えを考慮しながら医療実践できる能力を涵養するのが有用であることなどについて、具体的な方法の紹介があり、本学の今後のプロフェッショナリズム教育に対する大きな示唆を得ることができました。

医学部では、今後も医学教育の改革に向けたFDを定期的で開催していく予定です。

看護学部一日体験入学開催

平成30年11月3日（土・祝）看護学部実習室において、看護学部一日体験入学が開催されました。【写真】

高校生を対象として、看護学部における講義の実際を体験することで、大学で看護学を学ぶことへの関心を深めて頂くことを目的として開催されています。

当日は、46名の高校生が参加し、午前中の体験授業（テーマ「老年期を生きる人々の理解」）では、緊張する中で皆真剣に話しに聞き入っていました。

体験演習（テーマ「老年期を生きる人々の「姿勢や動作」動くことへの看護援助」）では、盛りだくさんの内容で、加齢による「感覚器」や「運動器」の変化を疑似体験し、高齢者と若者の姿勢や動作の違いについて学びました。また、「観察や疑似体験」で感じたことをグループごとに発表し合い、高齢者が安全で安心して「動く」ことへの看護援助について興味深く学ぶ機会になりました。

昼食は、アシスタントを務める看護学部生と歓談しながら交流を深め、午後からはドクターヘリ、ドクターカーを見学しました。

参加した高校生からは、「高齢者の方々の苦勞さや大



変さを知ることができたので良かった。」、「グループ形式での模擬授業によって、より楽しんで臨むことができました。」、「先輩方がとても優しく、先生との距離も近く感じた。」、「在校生の先輩方の明るくきらきらした笑顔が素敵でした。」、「ドクターヘリを間近で見ることができ良かった。」などの感想が寄せられ、参加した高校生にとっては、貴重な体験を通してとても有意義で充実した一日となりました。

看護学研究科 高度実践看護師（診療看護師）コース

平成30年度文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」及び
厚生労働省「教育訓練給付金（専門実践教育訓練）」指定講座に認定

平成30年12月20日付けで大学院看護学研究科高度実践看護師（診療看護師）コースが、平成30年度文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定されました。

「職業実践力育成プログラム」(Brush up Program for professional)とは、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。

平成31年4月以降に開講する課程としては32過程が認定されましたが、本コースには「身に付けることのできる能力が明確であり、社会的な要請が大きい分野でもあり意義が大きい。実務家による授業にも多分に双方向授業が取り入れられている。実地の実習についても特徴的な内容が盛り込まれている。」という評価を頂きました。

また、平成31年1月31日付けで厚生労働省「教育訓練給付金（専門実践教育訓練）」指定講座にも認定されました。

専門実践教育訓練での「教育訓練給付金」制度とは、働く人の主体的で中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者（在職者）、又は一般被保険者であった方（離職者）が、厚生労働大臣の指定する専門実践教育訓練を受講し修了した



Brush up Program
for professional

場合、本人が教育訓練施設に支払った教育訓練経費の一定の割合額（上限あり）をハローワークから支給する制度で、本コースに入学し、一定の要件を満たす場合は受講者に対して、2年間で最大112万円が支給されることとなります。

※専門実践教育訓練給付金の制度等の詳細については、最寄りのハローワークへお問い合わせください。

看護学研究科高度実践看護師（診療看護師）コースは、(1) 日本NP教育大学院協議会が指定する診療看護師（NP）養成教育カリキュラムの基準を満たす大学院診療看護師（NP）養成コース教育、(2) 厚生労働省が指定する「特定行為に係る看護師の研修制度」教育（38行為21区分）、(3) 臨床実践看護学に関する研究と課題研究論文作成の三つの教育を柱として、高度な知識、技術、判断力を学び高い臨床実践能力を育成するとともに、研究活動を通じて広い視野を身に付けることで、チーム医療の中心的役割を果たすことができるリーダーシップを備えた診療看護師（NP）の育成を目指しています。

看護学研究科特別講義開催

平成30年11月21日（水）大学本館302講義室において、筑波大学医学医療系医学教育学の春田敦志先生をお招きし、「多職種連携コンピテンシーをどのようにIPEやIPWに活用できるか？」というテーマで大学院特別講義が開催されました。

講義では、教育者が「教える」こと≠学習者が「学ぶ」こと、学習者の学びを「促進させる」ことが教育者の基本であることを確認した上で、多職種連携に必要な六つのコンピテンシーである「患者・利用者・家族コミュニティ中心」、「職種間コミュニケーション」、「職種役割を全うする」、「関係性に働きかける」、「自職種を省みる」、「他職種を理解する」を目標として学習のアウトカムを設定し、カリキュラム理論を基に、学習者の世代性を踏まえたカリキュラム設定が必要であることを紹介して頂きました。

後半は、IPWを円滑に進めるためには、他職種を優劣で認識するのではなく、「違い」として捉える異文化理解が求められており、異文化間能力の向上には、(1) 個々の専門職が担う課題役割、(2) 排他性ではない協調的関係役割、(3) 学ぼうという意欲や態度であるインタープロフェSSIONナリズムという三つの要素が重要であるという異文化論の切り口からの説明はとても分かりやすく納得のいくものでした。

その後、カンファレンス場面のビデオ評価を通して、他職種へ意見を聞く時の言葉づかいや態度が、いかに多職種の連携に大きな影響を与えるかを実感することで、多文化の人と人の協働であるIPWの基本は、相手に関心を持つ姿勢であることを再確認できた貴重な講演となりました。

第45回医大祭に寄せて

実行委員長 医学部3学年次生 東原 康洋

平成30年11月3日（土・祝）・4日（日）に第45回医大祭が開催されました。

今回のテーマ「Explosion」は、学生一人ひとりが医大祭をきっかけに自らの壁を破って、新たな自分と出会い、個性を出し爆発的なエネルギーが生まれるような医大祭にしたいという思いで決めました。

医大祭期間中には、つるの剛士さんによるトークショーが開催され、「ただ命を助けるのみではなく、心と心の繋がりを大切にできる医師、看護師になって欲しい。」というメッセージを頂きました。その他、地域の方々と繋がりを感じる毎年好評のリサイクルマーケットや模擬店、学生によるスポーツ大会や芸大会等が開催されました。

また、毎年行っている献血活動に対して、厚生労働大臣から医大祭実行委員会へ感謝状が贈られました。今後も引き続き、献血推進に協力していきたいと思っております。

今回の医大祭を通じて、これからも学生達が自らの壁を破って、新しい個性に出会えるよう願っております。

最後になりましたが、医大祭が無事に終わりましたのも、多大なるご支援、ご協力を賜りました方々のおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。



厚生労働大臣からの感謝状
左から鈴木孝太学生部長、
献血担当の河邊健人さん、
医大祭実行委員長の東原
さん

つるの剛士さんによる
トークショー



献血ご協力ありがとうございました

平成31年1月15日（火）大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、2019年6月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願いたします。

冬の団体献血

・ 献血受付数	・ 40名
・ 献血できた方	・ 37名 (400ml・33名)
・ 献血できなかった方	・ 3名

第1回オープンホスピタル開催

平成30年11月3日（土・祝）本院において、地域住民を対象に大学病院をより深く知って頂くことを目的に、例年行われていた愛恵会主催公演事業と共同で、病院初となるオープンホスピタルが開催されました。

来場者は1,000名を超え、ステージ公演や児童向けの医療体験、栄養相談を始めとした様々な企画に多くの方が参加されました。その中でも、仕事体験コーナーは子どもたちに大盛況でした。

「診療放射線技師」仕事体験コーナーでは、CT等の機器の操作をしたり、実際に撮影されたものがどのように映るのかなど普段はなかなか体験することができない企画が満載でした。また、大人向けには、骨密度測定やマンモグラフィ模擬体験が開催されました。

また、「薬剤師」仕事体験コーナーでは、模擬処方箋を基に調剤をする「錠剤ピッキング体験」を始め、錠剤に見立てたラムネ等を使った「錠剤分包体験」、チョコレートクリームを使用した「軟膏調剤体験」、オレンジジュースを計量し投薬便に入れ、ラベルを貼る「水剤体験」という四つの企画が行われ、非常に人気でした。

その他にも、院内各地で「意外と知らない！？がんクイズ」、「ドクターヘリを作ろう！」や「栄養相談&試飲試食コーナー」、「わくわく！！ちびっこ医師・看護師体験」等が開催されました。

来年度は、今回の経験や反省を活かし、更にグレードアップしたオープンホスピタルが実施できるよう計画中です。

開催時期などの詳細が決まりましたら、ホームページでご案内いたします。



案内チラシ



「診療放射線技師」仕事体験コーナー



「薬剤師」仕事体験コーナー



「意外と知らない！？がんクイズ」コーナー

世界糖尿病デーin愛知医大2018開催

平成30年11月12日（月）～16日（金）本院において、糖尿病療養支援チーム主催により「世界糖尿病デー in 愛知医大2018」が開催されました。【写真】

11月14日の「世界糖尿病デー」に合わせて、糖尿病予防・啓発を目的（糖尿病の発症予防・重症化予防、糖尿病合併症の発症予防・進展阻止のため）として毎年開催、今回で4回目になりました。

今回は、リニューアルしたポスター展示や人気企画である血糖測定体験に加えて、食品サンプルの展示や医療スタッフによる運動療法相談などが行われました。また、健康情報室（アイブラリー）において、糖尿病教室が毎日開催された他、職員食堂及び病院レストラン協力の下、ヘルシーランチが販売されました。

開催に当たり、長久手市を始め、瀬戸市や尾張旭市の広報誌や病院HPなどで案内を行い、糖尿病で通院・入



院されている方に限らず、教職員や一般の来院者の方々にも多数ご参加頂きました。

イベントに参加したことがきっかけで、日頃の食生活に気を配るようになったなど参加者から嬉しい声を頂きました。イベントを通して、多くの方々に「糖尿病」について関心を持って頂く良い機会となりました。

平成30年度医療安全推進週間イベント 「自分を知って転災予防」

「転ばないための習慣（週間）」をコンセプトに掲げ、平成30年11月19日（月）～22日（木）中央棟2階特設ブースにおいて、「自分を知って転災予防」をテーマに医療安全推進週間イベントが開催されました。

理学療法士による立位バランステストの実施、本院の転倒・転落データや職員から応募した医療安全川柳の発表、ロコモティブシンドローム、転倒予防体操の紹介、栄養・薬剤相談が実施されました。また、つえ等の自助具やヒッププロテクター等の安全グッズも展示され、スタッフから説明が行われました。

各ブースには、外来患者さんや入院患者さん、お見舞いの方を始め多くの方が参加され、中日新聞でもこのイベントが紹介されました。

参加者からは、「ロコモティブシンドロームは聞いたことがあったが、詳しい内容を初めて知り、良い勉強になった。」などの感想がありました。



参加者で賑わう
イベントブース

医療安全管理室では、患者安全の確保・推進のために様々なイベントを行っていますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

麻酔科主催 Fundamental Critical Care Support (FCCS) コース開催

平成31年1月19日（土）・20日（日）の2日間シミュレーションセンターにおいて、本院麻酔科と一般社団法人集中治療医療安全協議会との共催で、Fundamental Critical Care Support (FCCS) コースが開催されました。【写真】

FCCSは、非集中治療医が集中治療を要する患者の最初の24時間を安全に乗り切ることを学ぶための最適なコースです。米国集中治療医学会で開発され、世界中で広く開催されており、現在東海地方では本学でのみ開催されています。

今回本学において6回目のコース開催となりましたが、合計48名が受講し、本学からは医師2名、看護師6名の合計8名がコースを修了しました。

数時間後に重症化する患者さんを早期に見つけること、重症化した患者さんに適切な介入を行うことは予後



を決める重要な要素です。生理学とエビデンスに裏付けされた世界標準の医療を学ぶチャンスはなかなかありません。

次回のコース開催は、平成31年8月を予定しています。少しでもご興味のある方は、麻酔科医師またはGICU看護師に相談してください。多くの医療従事者の受講をお待ちしています。

小児科病棟クリスマス会 ☆病室にサンタクロースがやってきた☆

平成30年12月6日（木）午後1時30分から8 A病棟プレイルームにおいて、小児科医局の協力の下、クリスマス会が行われました。【写真】

当日は、スタッフによるパフォーマンスなどイベントが盛りだくさんでした。

最後にサンタクロースから子供たち一人ひとりにプレゼントが手渡されました。プレゼントを手にした子供たちは、満面の笑みを浮かべ、また、ご家族の方々にとっても楽しい時間を過ごすことができたようです。



平成30年度メディカルクリニック講演会開催

平成30年9月15日（土）、10月27日（土）、11月23日（金・祝）、12月1日（土）の計4回にわたり、愛知医科大学メディカルクリニック1階ロビーにおいて、講演会が開催されました。

様々なテーマで開催される講演会には、毎回20名前後の方にご参加頂いています。各分野専門の医師が講師を務め、病気の原因やその治療方法などを詳しく解説し、講演会終了後には希望者に対して個別相談会も行われます。

メディカルクリニックでは、今後も地域の方々向けの講演会を開催し、クリニックの知名度・認知度向上を図っていきます。

これまでの講演内容は、次のとおりです。



摂食嚥下障害について解説する有元先生

日時	講演テーマ	講師
平成30年9月15日（土）	はじめるなら今、舌下免疫療法（ダニ、花粉）	呼吸器・アレルギー内科 河合聖子医師
平成30年10月27日（土）	白内障と緑内障の違い、ご存知ですか？	眼科 伊藤麻耶里医師
平成30年11月23日（金・祝）	メタボリック症候群の病態、診断、対策	循環器内科 加藤勲准教授
平成30年12月1日（土）	摂食障害・嚥下障害って何？基礎知識と対処療法	耳鼻咽喉科 有元真理子医師

監査室

ハラスメント防止イベント開催

平成30年12月4日（火）から10日（日）の人権週間になんで、ハラスメント防止に向けた啓発活動を実施しました。

平成30年12月4日（火）・6日（木）をイベント開催日とし、セクシャルハラスメント及びパワーハラスメント関連のDVD放映を4部制にして実施し、DVDの視聴者からは「（ハラスメントの）グレーゾーンの難しさを再確認できた。」「グレーゾーンを回避するポイントについては、常日頃から発言等に気を付けなければいけないとよく分かった。」などの意見がありました。

また、ハラスメントに関する相談を気軽にできる機会

として、簡易相談窓口を設置しました。この他、職員や学生の目につくパブリックスペースに、ハラスメント防止ポスターを掲示し、広くハラスメント防止の意識づけを行いました。

困ったときは一人で悩まず、携帯用の『ハラスメント防止啓発カード』にある相談窓口の専用電話番号（内線：77744）や専用メールアドレス（ksoudan@aichi-med-u.ac.jp）を利用して、相談するように心がけて頂きたいと思います。今後も「ハラスメントのない明るい職場作り」にご協力をお願いします。

授業支援システム（AIDLE-K）利用説明会開催

平成30年11月26日（月）・27日（火）マルチメディア教室において、総合学術情報センター（ICT支援部門）主催の授業支援システム（AIDLE-K）利用説明会が開催され、2日間合わせて教職員36名の参加がありました。

両日ともに、同センターの橋本貴宏ICT支援部門長によるAIDLE-Kの概要説明の後、志知孝一主任から基本的な機能紹介及び操作説明があり、演習を交えて参加者に操作性を体感して頂きました。

AIDLE-Kは、ファイルのアップロード、課題の提出及びアンケート収集などパソコンや携帯端末を活用した授業支援に効果的な機能を有しており、またインターネットを介して、自宅など学外からも予習・振り返り学修等に利用できるようになっています。

総合学術情報センター（ICT支援部門）では、今後も教育におけるeラーニングシステムの一環として、



AIDLE-Kについて説明する橋本部門長

AIDLE-Kのサポートを通じて、授業や自学自習における学修支援を行うとともに、教育現場での利用の普及を図っていきます。

分子医科学研究所30周年記念講演会開催

平成30年11月10日（土）12時30分から大学本館たちばなホールにおいて、分子医科学研究所30周年記念講演会を開催しました。本講演会は、昭和63年4月に設置された本研究所が30周年を迎えたことを記念して、研究者の方々を対象とした学術講演会という形で実施されました。

開会に当たって、三宅養三理事長、佐藤啓二学長のごあいさつがあり、引き続き本研究所に対し、長年にわたってご支援を頂戴して参りました生化学工業株式会社代表取締役社長の水谷建様よりご祝辞を賜りました。

講演は、第三代研究所長の木全弘治名誉教授による「本分子医科学研究所設立への道」に始まり、西田佳弘先生（名古屋大学医学部附属病院リハビリテーション科）による「整形外科疾患に関するヒアルロン酸研究」、門松健治先生（名古屋大学大学院医学系研究科）による「プロテオグリカンによるオートファジーと神経軸索再生の制御」、羽瀧脩躬先生（学際的痛みセンター）による「肝線維化における高硫酸化DSの役割、実験的OAにおける肥満細胞の疼痛誘起効果」、山田修平先生（名城大学薬学部）による「グリコサミノグリカン生合成酵素の欠損による遺伝病の研究」、私渡辺の「個体発生と病態におけるパーシカンの役割」、磯貝善蔵先生（国立長寿医療

分子医科学研究所・所長（第四代） 渡辺 秀人

研究センター）による「細胞外マトリックス研究を眼の前の高齢者医療に」、篠村多摩之先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科）による「軟骨の転写制御」の合計8題の講演が執り行われました。



講演する渡辺所長

講演内容は純粋な基礎研究から治療戦略まで、研究方法に関しても細胞生物学、分子生物学、遺伝学等幅広い分野にわたるものとなりました。質疑応答も活発に行われ、意義の高い講演会になったと自負しております。講演後の意見交換会では研究者同士歓談しました。

本研究所は設立以来「細胞外マトリックス」、「プロテオグリカン」、「グリコサミノグリカン」を基軸に研究を続けて参りました。今やインターネットを使えば、わずか数秒で検索結果が出てくる時代になりましたが、今回の講演会では、新たな発見や研究者の育成には長い年月がかかることを痛感しました。

本講演会を契機に本研究所が更なる発展を遂げるよう今後とも力を尽くす所存です。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教育・研究・診療の施設・設備整備事業募金寄付者ご芳名 (敬称略)

2018年4月から「教育・研究・診療の施設・設備整備事業募金」の募金活動を実施しておりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年12月末日までにご寄付を頂いた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

(2018年4月1日～2018年12月31日現在)

募金総額 32,988,880円 募金者数：個人 39件 法人・団体 8件

〈個人〉

浅井 和子	坂本真理子	遠山美智子	増岡 尚子
市川 嘉一	嶋吉 敏文	富田 幸嗣	三浦久美子
内田 稔也	鈴木 泰子	仲谷 宗裕	森川 晋吾
大須賀友晃	高田 勝	中野 久美	柳原 崇
加藤 純子	高田麻哉子	中山 貴子	矢野浩一郎
久野 健一	高橋 孝子	肥後 夏月	
小杉 将仙	田中 信彦	樋上 泰成	

匿名 13件 (五十音順)

〈法人・団体〉

愛知医科大学医学部父兄後援会

一般社団法人愛知医科大学同窓会

愛知医大サービス株式会社

匿名 3件 (五十音順)

医療法人社団京愛会

医療法人美衣会衣ヶ原病院

※寄付申込みに当たりご芳名の掲載を許諾頂いた方のみ掲載しています。

教育・研究・診療の施設・設備整備事業募金寄付者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（教育・研究・診療の施設・設備整備事業募金）においても掲載しています。

学際的痛みセンター 井上真輔准教授 (特任) 日本ペインクリニック学会第52回大会 最優秀演題賞受賞

学際的痛みセンターの井上真輔准教授 (特任) が、平成30年7月19日 (木) ～ 21日 (土) グランドプリンスホテル新高輪国際館パミールで開催された日本ペインクリニック学会第52回大会において、最優秀演題賞を受賞しました。

同学会で査読を経て選ばれた380演題の中、井上准教授 (特任) が発表した「難治性慢性疼痛に対する集学的慢性痛マネジメントプログラムの効果」が高く評価され、最優秀演題賞として選定されました。

表彰を受けた井上准教授 (特任) から「学際的痛みセンターで行っている難治性慢性疼痛に対する入院治療プログラムについて発表した演題が、最優秀演題賞を授賞しました。治療チーム全員の情熱と努力に加えて、大学と病院に全面的に協力、応援して頂いたことで、このような栄えある賞を授賞できました。ご協力を頂いた関係者の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。今



表彰式での記念撮影
井上准教授 (特任) (左) と大会長である順天堂大学の井関雅子先生 (右)

回の授賞を励みにして、長く痛み苦しむ患者さんのお役に立てるようこれからも頑張っていきたいと思えます。今後ともどうぞよろしくようお願い申し上げます。ありがとうございました。」との感想がありました。

事務職員キャリアデザイン講演会開催

キャリアデザインの重要性が高まっている中、今後の大学事務職員としてのキャリアを考え、行動していく機会とするため、名古屋大学事務職員としてご活躍される松村彩子氏を招き、平成30年11月15日（木）午後5時30分から大学本館301講義室において、事務職員キャリアデザイン講演会が開催されました。【写真】

「大学事務職員大改造論」をテーマに、国際学術交流研修に参加した経験等から、大学事務職員や大学組織が今後どう行動していくべきなのかについて持論を展開されました。

受講者からは、「事務職員としてのキャリアパスについて考え、問題提起をしながら仕事を行う大切さを改めて感じることができた。」「キャリアパスに加え、



generalist VS specialistのことなど、普段自身が悩んだり考えていることについて話して頂き、とてもためになりました。」といった感想がありました。

法制執務の基礎研修開催

大学職員にとって、規程の制定や改廃を始めとした法制執務は重要な仕事であることから、法律に関する概念や仕組みの理解を進め、実務遂行能力を向上させることを目的として、平成30年11月20日（火）午後4時から大学本館711特別講義室において、法制執務の基礎研修が開催されました。【写真】

「大学事務職員のための、法制執務の基礎」をテーマに総務・秘書室の村井利行主査が講師を務め、法秩序の一般原則や規則の種類、本学における規則の取扱や規程の種類について学習した後、実際に規程改正をする練習問題にも取り組むことで、受講者の気づきを深めました。

受講者からは、「規程はとっつきにくいイメージがあったが、今回の研修で基本の知識を学び、そのイメージ



を払拭することができた。」「モデルケースを用いての説明がとてもためになった。また、公用文の言葉の使い方について勉強が必要なのに気づかされた。」といった感想がありました。

平成30年度SD講演会「私学経営を担う大学職員とは」

平成30年12月12日（水）午後5時30分から大学本館202講義室において、日本私立学校振興・共済事業団の私学経営情報センター長である菊池裕明氏を講師にお迎えし、「私学経営を担う大学職員とは」をテーマに平成30年度SD講演会が開催されました。【写真】

「私立大学の現状」を踏まえた上で、Society 5.0に向けて取り組まれている政策の方向性を始め、補助金の動向について説明がありました。また、SDGsやEdTechなどの大学業界を取り巻く動きにも触れられ、クラウドファンディングによる資金調達やRPAの導入による業務効率化に関する他大学の事例紹介があり、大学職員が意識していくべきことについて、幅広く学ぶ機会になりました。



受講した職員からは、「幅広く知識が得られ、一つひとつ考える時間を持ちたい。」「寄付金獲得や学生募集の重要性を再認識した。」「他大学の事例を本学でも取り入れたいと思った。」といった感想がありました。

会計担当者向けの労務に関する研修会を開催

平成30年12月17日（月）・18日（火）の2日間にわたり、大学本館304講義室において、会計担当者研修会が開催され、各講座等の会計担当者等62名が参加しました。

この研修会は、各講座及び事務担当部署等において研究費の会計を担当している助手、臨床技術員、事務職員等を対象に労働法制の基礎等労務に関する基礎的知識の習得を目的として開催されたものです。

講師は、人事・厚生室の角育男主査と村瀬雄亮主任が務め、採用時のプロセス、法律で定められている労働時間・休憩時間、給料の支払いや年次有給休暇について、

労働者を雇用する際に必要不可欠な事柄についての説明があり、労務管理が未経験の出席者にとっても、基礎知識について理解を深める機会となりました。

昨今、雇用や労働に関するニュースが世間を騒がせていますが、今回のような知識を習得することは、業務に当たる際に役立ち正しい管理に繋がるため、今後もテーマを変えながらこのような研修会を開催し、正しい知識の普及を推進していきます。

事務職員資格取得

学是「具眼考究」を踏まえたSD（スタッフ・ディベロップメント）実施に関する基本方針の下、事務部門では「具眼」に該当する具体的な取り組みとして、業務遂行に必要な知識習得に積極的に取り組んでいます。平成30年には、計20名の事務職員が各担当業務に直結する資格・検定を受験し合格しました。

習得した知識・技能を業務へ活かし、更なる自己研鑽によるステップアップが期待されます。



医療経営士3級	病院経営企画課 矢内亨扶課長
知的財産管理技能検定3級	総合学術情報センター事務室 山辺康夫主査
第1種衛生管理者試験	人事・厚生室 藤田智久主査 人事・厚生室 廣江真也主事
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種（セルフケアコース）	研究支援課 勝野いつか主任
PRプランナー補資格認定証	教学課 野々健太主事
二級ファイナンシャル・プランニング技能士	人事・厚生室 藤田智久主査
簿記検定3級	医療安全課 小栗徹也主査 人事・厚生室 辰野好成主事 人事・厚生室 森 美公主事 資金・出納室 今田有紀主事 資金・出納室 納土祐貴主事 病院管理課 阪井亮介主事 医事課 服部姿弓主事
ビジネス文書技能検定試験3級	人事・厚生室 辰野好成主事
ビジネス実務マナー技能検定2級	総合学術情報センター事務室 市川美智子主任
Microsoft Office Specialist Office Word 2016	学生課 村木亮介主事
Microsoft Office Specialist Office Excel 2016	学生課 村木亮介主事
個人情報保護士認定試験	総務・秘書室 宮島 朋之主事
情報セキュリティマネジメント試験	医療情報システム課 加藤大貴主事
ITパスポート試験	地域医療連携課 稲葉茂主査 総務課 久米絵美主事 学生課 間瀬彩奈主事 総務・秘書室 宮島朋之主事

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取組みなどについて紹介いたします。

痛みセンター

学際的痛みセンターの診療部門である痛みセンターは、多診療科の医師及び歯科医師、看護師、理学療法士、臨床心理士などのコメディカルが一つのチームとなって診療に当たる、本邦で最初の集学的な痛みセンターです。本センターでは、痛みに関連した病気に悩んでいる患者さんを総合的に診断し治療を行い、QOL、ADLを向上させることを理念として診療に当たっています。

慢性疼痛を起こす要因は様々ですが、その原因を見つけることよりも、痛みがあっても幸せな生活を送ることができるようにすることが大切です。治療は、各種薬物療法（漢方を含む）や理学療法を中心とした集学的な治療を行っています。それでも改善が思わしくない場合は、症例によって脊髄刺激療法（SCS）や高周波熱凝固法、もしくはパルスRF療法、心理療法なども適応しています。

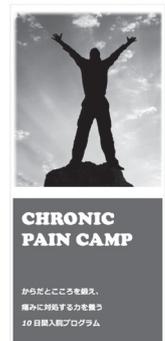
慢性疼痛にうまく対処するためには、様々なコツがあります。動かさなかったために低下した筋力、痛みに対する間違った捉え方を修正する方法、痛みに対する心構えなどは薬を飲むだけでは身に付きません。また、外来の短い時間では、うまく痛みに対処していく様々なコツを身に付けることができているため、運動療育センターと連携した通院型の「慢性痛教室」や週末入院型の「ペインキャンプ」【写真下】の受講を勧めています。ペ



集学的慢性痛マネジメントプログラム

CHRONIC PAIN CAMP

難治性の慢性痛患者さんを対象とした「痛みがあっても活動的な人生を送る」ことを目標とする、短期入院型包括的慢性痛マネジメントプログラム



インキャンプでは、運動や認知行動療法、リラクゼーションを集中的に行うことで、原因の分からない痛みでも改善が得られています。

長引く痛みにお悩みの患者さんは是非ご相談ください。

学 術 振 興

平成31年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
新学術領域研究 (研究領域提案型)	6	25,050
基盤研究 (A) (一般)	1	17,000
基盤研究 (B) (一般)	5	33,070
基盤研究 (C) (一般)	111	202,463
挑戦的研究 (萌芽)	9	14,062
若手研究	77	140,972
合 計	209	432,617

平成30年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究開発契約における変更契約 (研究計画変更に伴う委託費の増額)の締結

平成30年度採択された国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題のうち、次のとおり変更契約（研究計画変更に伴う委託費の増額）を締結しました。

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	伊藤清顕 医学部 内科学(肝胆臓内科), 教授(特任)	34,500,000円 (25,000,000円の増額)	胆汁酸代謝調節機構を標的としたB型肝炎ウイルス制御

- ・平成30年12月までの本学と日本医療研究開発機構との直接契約課題のうち、学報第152号に掲載された内容から変更された課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

◆大学院医学研究科



内野 大倫

学位授与番号 甲第522号
学位授与年月日 平成30年12月13日
論文題目:「Functional Analysis of Histone H2AX for DNA Damage Responses in Cancer Cells (癌細胞におけるDNA損傷応答に対するヒストンH2AXの働き)」



井上 匡央

学位授与番号 乙第393号
学位授与年月日 平成30年12月13日
論文題目:「Long-term outcomes of endoscopic gallbladder stenting in high-risk surgical patients with calculous cholecystitis (with videos) (手術困難な胆石性胆嚢炎に対する内視鏡的胆嚢ステント留置術の長期経過)」



佐喜真 未帆

学位授与番号 甲第523号
学位授与年月日 平成30年12月13日
論文題目:「VEGFR-3 signaling is regulated by a G-protein activator, activator of G-protein signaling 8, in lymphatic endothelial cells (リンパ管内皮細胞におけるVEGFR-3シグナル伝達は、Gタンパク活性調節因子8により制御される)」



萩原 真清

学位授与番号 乙第394号
学位授与年月日 平成30年12月13日
論文題目:「Sterile Radiation Protective Sheet Placed on the Patient's Abdomen during Hepatic Arterial Chemoembolization Reduces Radiation Dose to the Operator's Eyes (肝動脈化学塞栓療法における術者への散乱線遮蔽用ディスプレイ防護シートの有用性)」



高尾 晶子

学位授与番号 甲第524号
学位授与年月日 平成30年12月13日
論文題目:「Generation of PTEN-knockout (-/-) murine prostate cancer cells using the CRISPR/Cas9 system and comprehensive gene expression profiling (CRISPR/Cas9システムを用いたPTENノックアウトマウス前立腺癌細胞の樹立と網羅的発現遺伝子の解析)」

研究助成等採択者

○一般財団法人愛知健康増進財団

2018年度医学研究・健康増進活動等助成金

- 氏名 山村彩 (生理学講座・助教)
研究題目 肺動脈性肺高血圧症の新規バイオマーカーの探索
助成金額 500,000円

○公益財団法人ホソカワ粉体工学振興財団

平成30年度研究助成

- 氏名 福重香 (解剖学講座・助教)
研究題目 高分子量ヒアルロン酸含有吸入用マイクロ粒子の開発
助成金額 800,000円

○一般財団法人愛知健康増進財団

2018年度医学研究・健康増進活動等助成金

- 氏名 成定明彦 (産業保健科学センター・講師)
研究題目 大規模健診データをもちいた、定年延長時代の高齢労働者の健康に関する研究
助成金額 500,000円

○公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団

2018年度研究助成

- 氏名 池上啓介 (生理学講座・助教)
研究題目 網膜における概日光応答リズムが概日時計により制御される仕組みの解明
助成金額 2,000,000円

○公益財団法人臨床薬理研究振興財団

平成30年度(第43回)研究奨励金

- 氏名 池本竜則 (整形外科学講座・講師)
研究題目 慢性腰痛患者に対するオープンラベルプラセボ効果の解明
助成金額 2,000,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第20回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会
- ・日本耳鼻咽喉科学会 第175回東海地方部会連合講演会
- ・第56回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会

【開催日】

- 平成30年11月24日(土)
- 平成30年12月9日(日)
- 平成30年12月15日(土)

【会長等】

- 伊佐次厚司
- 植田 広海
- 矢野 智紀

第20回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会

歯科口腔外科技工室 伊佐次厚司

平成30年11月24日(土) 東海東京証券ミッドランド・プレミアサロン(ミッドランドスクエア8階)において、第20回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会を開催しました。

本会は、口腔顎顔面のみならず身体装具、放射線治療時の防具等を含めた幅広い分野の技工学、材料(理工)学に関する臨床及び研究の成果を発表する場となっております。その意味合いにおいて、今大会のテーマは「多職種との協働」としました。

当日は、日本全国で活躍中の当該分野の技工を専門とする大学病院及び地域医療支援病院等に勤務する歯科技工士、その他当該技工並びに治療を実践している医療関係者を含めた116名のご参加を頂きました。特別講演2題、宿題講演1題、一般口演10題の発表があり活発な討論が行われました。

本会運営につきましては、一般社団法人愛知医科大学愛恵会からもご助力を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日本耳鼻咽喉科学会第175回東海地方部会連合講演会

耳鼻咽喉科学講座・教授 植田 広海

平成30年12月9日(日) 大学本館たちばなホールにおいて、日本耳鼻咽喉科学会第175回東海地方部会連合講演会を本学耳鼻咽喉科学講座の主催で開催しました。

この会は、愛知県・岐阜県・三重県内の医学部を持つ六大学及び愛知県の四つの主要な病院の持ち回りで年4回開催されています。以前は一般講演のみの学会でしたが、平成28年度から耳鼻咽喉科専門医の更新制度が変更となり、耳鼻咽喉科領域講習の受講が必須となったため、今回もこの領域講習をプログラムに取り入れました。

一般演題は、本院耳鼻咽喉科を含めて22題の発表があ

りました。参加者は、東海三県の大学・病院の耳鼻咽喉科勤務医及び開業医165名で活発な討論がなされました。また、領域講習として、耳鼻咽喉科学講座の内田育恵准教授(特任)による「ことばを聴きとる科学」の講演が行われ好評を博し、大変有意義な学会となり成功裏に終わることができました。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり、皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第56回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会

外科学講座(呼吸器外科)・教授(特任) 矢野 智紀

平成30年12月15日(土) 名古屋市立大学において、第56回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会を開催いたしました。

本学としては、第38回に呼吸器・アレルギー内科の山口悦郎教授が開催されて以来となります。一般演題15題の後、4名の討論者によるパネルディスカッションを行い、閉会前に優秀演題賞の表彰を行いました。この度日本呼吸器内視鏡学会から新たな気管支鏡所見分類が改定

され、新分類を採用した初めての会となりましたので、多少の戸惑いはありましたが、中部地区の呼吸器内科、呼吸器外科の先生に多数ご参加を頂き、盛況のうちに会を終えることができました。

多くの先生方にご協力を賜りましたこと、一般財団法人愛知医科大学愛恵会よりご支援を頂きましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

海外研修派遣研修記

本学では、教育、研究活動等の向上に寄与するため、教員の海外研修派遣を実施しています。この度、医学部公衆衛生学講座の王超辰助教が海外研修へ参加されましたので、その研修記をご紹介します。

王 超 辰

(公衆衛生学講座・助教)

研修課題：世界標準の疫学・統計学の習得および研究実践

研修先：ロンドン大学 衛生・熱帯医学大学院

研修期間：平成29年9月18日～平成30年9月15日

この度、本学の海外研修派遣制度により、イギリスのロンドン大学衛生・熱帯医学大学院において、海外研修の機会を頂きました。London School of Hygiene & Tropical Medicine (以下LSHTM)では、密度の濃い講義及び実習、コースワークなど1,800時間の研修を受け、無事に医学統計学の修士学位を取得しました。

LSHTMは、ロンドン大学群の一つで、公衆衛生学専門の研究所・大学院です。ロンドン大学群の有名なCollegeには、University College London (UCL) や King's College London (KCL), London School of Economics & Politics Science (LSE) などがあります。日本では、「ロンドン大学連合」とも呼ばれますが、各カレッジはそれぞれ独自に学生教育、研究を行ったり、共有している施設(学生寮・教室)をお互いに利用することができます。

LSHTMは、名前の通り感染症対策から発展した疫学が中心ですが、それ以外にも生活習慣病の疫学研究、臨床試験などの指導と業績において世界的にも有名な研究施設です。LSHTMには年間500～600人の学生が入学します。最も多いのは、Master of Public Healthコースで、200人近くいましたが、私が所属したMedical Statistics (医学統計学)は、パートタイム学生を含めて30名弱と少なく、アジア出身は私1人だけでした。

公衆衛生学という予防接種や国際保健などを皆さんはイメージされるかもしれませんが、私のコースは統計学の基本科目(確率論、統計推論、回帰モデル)から臨床試験の計画・統計解析・結果の解釈について、多数の講師達により提供されるデータを用いて考える授業とプログラミング実習がほとんどでした。基本的に、第1学期から第3学期の間は、毎週4日間(月火木金)の集中講義がありました。朝9時半から1時間半の対面授業、30分間休憩してから1時間半のプログラミング実習(講師付き)、昼を挟んで、午後2時からまた午前と同じように3時間の講義とデータ解析実習という形で研修が実施されました。

ロンドンでの生活は、生活費が非常に高いことに加え、去年の冬が著しく寒く(雪は6回も降りました)、また、今年の夏が異常に暑く、必ずしも快適でないところがありました。一方、ロンドンの町並は古くて綺麗です。百年以上経った建物がたくさんあり、道の両側に整然と並んでいます。また、緑の多い公園も数多くあります。

LSHTMのキャンパス(と言っても建物一つだけです)は、ロンドンのだ真ん中にある大英博物館のすぐ裏



LSHTM-MSc-Medical Statistics,
2017-2018年教職員及び学生との集合写真



LSHTMの大学図書館で課題をするのが日課でした

にあります。学生寮(International Hall)はそこから東に徒歩10分程度のラッセル・スクエア公園の近くにあり、そこで最初の9か月間を過ごしました。留学中には、クリスマスの休暇やイースターの休みを利用して、イギリス西南部、少し田舎のCornwallまで足を伸ばしてホームステイを経験し、スコットランドの最も北の海岸にも行きました。

2018年7月初旬から集中講義がなくなり、帰国するまでの間は修士論文を指導教官の下で指導を受けながら、それまでに学んだ統計学の理論を活かして、データ解析及び修士論文の作成に専念しました。使っていたデータは、イギリスで毎年実施されている国民栄養調査データベースです。そこで私は、イギリスの一般住民での炭水化物の摂取時間に注目し、イギリス住民を対象にして実際の食事パターンを調べることにしました。時間栄養学は最近日本でも話題になってきて、食生活の中に、何をどれだけ、いつ、どのように食べるのがいいかを解明する研究分野です。現在、この解析結果を基に書いた論文を英文雑誌に投稿しているところです。

最後に、このように大変充実した一年間の海外研修という貴重な機会を与えてくださった愛知医科大学の関係者の皆さまにこの場をお借りして深くお礼申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

自己点検・評価委員会規程の一部改正

愛知医科大学自己点検・評価委員会規程の一部が改正され、大学基準協会による大学評価（第3期）に対応するため、自己点検・評価項目が改められました。

施行日は平成30年12月1日

「教員の職名の英文名称について」の一部改正

平成30年12月1日付けで「教員の職名の英文名称について」（学長裁定）の一部が改正され、教員の職名に対応する英文名称が改められました。

「学生への研究依頼のあり方について」の裁定

平成31年1月22日付けで「学生への研究依頼のあり方について」が医学部長裁定され、人を対象とする医学系研究を実施する場合で、学生を被験者とするための依頼方法が定められました。

「医学部における外国人研究員に対する滞在費補助取扱基準」の一部改正

平成31年1月1日付けで「医学部における外国人研究員に対する滞在費補助取扱基準」（理事長裁定）の一部が改正され、支給金に対する源泉徴収所得税の取扱い等が整備されました。

感染予防対策委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院感染予防対策委員会規程の一部が改正され、委員会の構成員が改められ、委員会の庶務を担当する部署が明記されました。

施行日は平成30年12月1日

輸血療法委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院輸血療法委員会規程の一部が改正され、委員会への代理出席制度に関する整備がされました。

施行日は平成30年12月1日

「患者相談窓口設置要綱」の一部改正

平成30年12月4日付けで「患者相談窓口設置要綱」（病院長裁定）の一部が改正され、窓口の設置場所及び責任者の役職等が現状に即した表現に改められました。

給与規程の一部改正

学校法人愛知医科大学給与規程の一部が改正され、次の整備がされました。

- ・平成30年人事院勧告に基づき、本給表が改められました。

施行日は平成30年12月10日

- ・定期昇給の時期が年4回から年1回（4月昇給）に改

められました。

施行日は平成31年4月1日

この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学給与規程施行細則
施行日は平成31年4月1日
- ・助教（専修医）の給与等について
施行日は平成30年12月10日
- ・学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程
施行日は平成31年4月1日

給与規程施行細則の一部改正

学校法人愛知医科大学給与規程施行細則の一部が改正され、昇格時号給対応表及び降格時号給対応表が改められました。

施行日は平成31年1月1日

事務決裁規程の一部改正

学校法人愛知医科大学事務決裁規程の一部が改正され、医療法等の改正に伴い、病院長の有する権限を明確化するために必要な整備がされました。この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成30年12月1日

【廃止】

- ・学長の旅行命令に係る委任等について